

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立戸田小学校

校長名 三橋 弘明

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	--

学校教育目標	学校経営の方針
ゆめをはぐくみ 未来にはばたく 戸田っ子の育成 【知】よく考える子(知の創造・自立と研鑽) 【徳】思いやりのある子(自他の尊重・共生と協働) 【体】たくましい子(心身の健康安全・向上と挑戦)	1 社会に関かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの推進 2 確かな学力の定着に向けた主体的で対話的な深い学びのある不断の授業改善 3 児童の安心・安全確保に向けた環境整備の充実と組織づくり 4 個に応じたインクルーシブ教育及び校内支援教育体制の推進と改善 5 開かれた学校づくりによる保護者や地域、関係機関等との連携と協働

今年度の重点目標	
1 未来を切り拓くための資質・能力の育成 2 知識及び技能の習得と調和的な思考力、判断力、表現力等の育成 3 学習意欲の向上・学習規律・学習習慣の確立 4 豊かな心、健やかな体の育成 5 人間関係づくりと児童の居場所ある学級経営の充実	

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校だより・学年だよりなどの文書や、ホームページ等により、学校の様子をきちんと伝えている。	3	学年・学校行事、配布文書等のホームページ掲載、情報提供	「学校へ行こう」週間を今年度もWeb開催とし、コロナ禍で来校できない場合にも対応できるように努めた。	学校ホームページが新しくなり、情報提供を分かりやすくしていくように努めたい。また、記事の即時性・利便性を高める。
保護者の要望などに対して適切に対応している。	3	家庭訪問・教育相談・授業参観での保護者との面談	開かれた学校を目指し、コロナ禍の対応とバランスを考えながら運営した。今年度は家庭訪問を再開し、教育相談と合わせて、個別に要望や考えを聞き取りつつ、改善に努めた。登校班について、意見をいただき、児童を安全に登校させるための活動として、PTAの方と協力して進めていくことを確認した。	家庭訪問や面談、各クラスの連絡帳などから児童の情報を収集し、学校全体へ共有していく。
授業参観や各種学校行事の開催方法や回数は適切である。	2・3	授業参観および運動会等学校行事の実施	コロナ禍のもと、工夫しながらできる限り実施する方向で進めた。保護者の理解と協力のもと、コロナ前と同様とはいかないながらも実施することができた。「学校へ行こう週間」、「戸田っ子作品展」については、実際に来校したいとの意見も多く、次年度への検討事項となった。	「戸田カフェ」など、保護者や地域の方が学校へ気軽に訪れることができる機会が増えるように設定していく。「学校へ行こう週間」、「戸田っ子作品展」については、感染症予防対策との兼ね合いを考慮しつつ、よりよい実施方法を検討していきたい。
通学時の安全や不審者対応等を適切に行っている。	2	登校指導や登校班長会議の開催 交通安全教室や防犯教室の開催 不審者メールの配信 児童への学級指導	教職員による登校指導や下校指導の機会に登校状況や通学路の様子の把握に努めるとともに、通学時に身の安全を守るための行動について指導を行った。しかし、今年度も下校時の事故が発生したために、今後も指導の徹底に努めていきたい。不審者情報があった場合は、保護者へのメール配信と共に、中学校区で連携し、見回りや集団下校等、状況に応じた対応した。	不審者対応訓練については、年間でバランスよく行い、意識が途切れることがないようにしていく。自転車を含めた交通安全の指導については、下校指導の時間にゆとりをもたせ、丁寧に指導できる環境を整える。
地域との連携を適切に行っている。	3	地域行事への参加 学校運営協議会委員への地域からの参加	今年度は、年度途中から「戸田カフェ」を実施し、コロナ禍であっても、地域と子どもたちを繋ぐことができるように努めた。地域の方との協働が難しい状況ではあったが、できることに取り組むことで次年度へ繋げていきつつあり、進捗ができた。	学校運営協議会の委員の力添えを頂きながら、よりよい学校のあり方について、ワーキンググループを中心に検討し、全体へ波及させていきたい。地域行事への参加やサポート隊の再整備等、地域と協力していく体制を維持したい。
児童は、楽しく学校に通っている。	1・2・3	各種行事活動の実施 授業改善による指導の充実 各種体験活動の充実	一人一人の児童を丁寧に見つけ、困難を抱える児童に対して、複数で対応するように努めた。学習面では個別の学習に力を入れる等、学習の躓きに対応できるように年間をとおして行った。生活面では、教育相談コーディネーターを中心に学校全体としてすべての児童へ対応できるように努めた。	行事等で楽しさを実感するとともに、日々の生活の中で学校が楽しいと思えるような学級経営ができるように学校全体としてサポートしていく。
児童は、宿題や家庭学習などにしっかり取り組んでいる。	1	「家庭学習の手引き」の発行 学年共通の課題(宿題)の提示 「にじの教室」の設置	相川中学校区の取組の中で、「家庭学習の手引き」を全家庭に配付し、家庭学習を推奨した。宿題については、各学年で工夫し、自ら学習を進められるよう促した。学習の補充のほか、興味をもった活動に対して深められるような課題を提示した。校内の取組として「にじの教室」の時間を設置し、自主的に学習を進め、苦手なところを克服していく学習や、自分で興味をもった活動を行うことができていた。	家庭学習の意義を発信し、保護者の理解を得るとともに、児童が進んで行えるように目的を明確にして進めていきたい。
児童は、あいさつしようと努めている。	2・3	学級活動「あいさつの取組」 職員によるあいさつの励行	進んであいさつをする児童が見られる一方、あいさつをされても恥ずかしがったり、コロナ禍の影響からか、大きな声を出していいのかという迷いも見られたりした。学校生活を通じて児童の意識の向上を図るとともに、家庭でも自然とあいさつができるよう、働きかけた。	あいさつの意義を繰り返し説明していくとともに、大人がよりよい手本となるように学校より発信していきたい。
児童は、交通ルールをよく守っている。	2	交通安全教室の実施 月2回の登校指導の実施 各学期1～2回の下校指導の実施	下校時に、道路に広がって歩行している児童や、放課後、危険な自転車の乗り方をしている児童を見かけたといった情報があった。交通安全について、学年や状況に応じて適宜指導した上で、1学期には、厚木市や厚木警察署、PTA校外生活指導委員会、トラック協会に協力していただき、1、3、5年は「交通安全教室」を実施した。2、4、6年は学級担任による「交通安全指導」を実施した。下校時の交通安全については、毎学期の下校指導において指導しているが、まだまだ定着していない。歩行のマナーや自転車の乗り方については、今後も随時指導に努める。	指導の時間を十分に確保できるように時程の見直しを行う。交通安全についての指導を継続していくとともに、意識付けの主体が家庭にあることを鑑み、家庭への呼びかけを積極的に行っていく。

児童は、社会のルールやマナーを守ろうとしている。	2・3	道徳の学習 学級指導	公園の使い方など、公共の場のルールやマナーを啓発しているが、ごみを散らかすなどの情報が得られた。学校と家庭が協力して指導を重ねた。SNS等の使い方は、外部機関と協力して、学校でも注意喚起を行ったが、トラブルとなっている。各家庭とも連携して、児童が自ら考え、正しく安全に使用できるよう継続した指導を行った。	公共施設の利用については、様々な場面を通して繰り返し伝えていく。SNSの利用については、高学年を中心に、外部機関と連携した取組を行っている。
教職員は、児童一人一人の様子を見守り、学校生活全般の指導に生かしている。	1・2・3	スクールカウンセラーと担当職員との協議、情報交換 他機関との連携 児童指導連絡会の実施 いじめアンケートの実施	「子どもたちのために」を合い言葉に、職員間のつながりを大切にして、教育相談コーディネーターを中心として組織で対応した。教育指導課、青少年教育相談センター、伊勢原養護学校などとの連携を図り、児童理解を深め、問題の解決、指導へと生かしている。また、毎週金曜日の打合せにおいて、児童の様子を共通理解して、随時対応できるようにしている。	児童理解の時間を大切にするとともに、懇談会等で活動を理解していただき、地域や保護者、学校との連携を図る。
教職員は、学習内容を児童にわかりやすく指導している。	1	日々の授業改善 児童が自ら考え行動に移せるように学力をつける	児童が考える素地づくりとして、様々な体験活動を取り入れるように工夫した。教職員は、全ての児童が学級の中で、その「もち味」を生かせるよう、出番や活躍の場を設定し何かをやりたいと思うときに挑戦できるような力をつけるように努めた。	校内研を中心として、児童が自ら考え、様々なことが取り組めるように基礎学力の定着を図る。
児童の心身の健康(いじめ・不登校等も含む)について、教職員に気軽に相談できる。	2・3	いじめのアンケート(年3回) 学校生活振り返りカード(年3回) 教育相談、家庭訪問、学校へ行こう旬間の実施	学期ごとに「いじめアンケート」や「学校生活ふりかえりアンケート」などを行い、児童の悩みや困り感などを早期発見し、チームとして早期対応し、解決するように取り組んだ。「児童指導・支援連絡会議」を定期的に開催し、長期的な展望が必要な案件に対して対応するように努めた。スクールカウンセラーや元気アップアシスタント(心の相談員)とともに、児童や保護者の相談に対応した。	スクールカウンセラーをはじめ、元気アップアシスタントやコーディネーターなどの学校におけるリソースを活用しながら、相談体制を維持し、児童や保護者が安心して相談できる学校にしていく。児童の実態を全体で共有しながら、チームとして問題の解決を図る組織体制の維持を行っていききたい。
保護者、地域の方々への支援(学習ボランティア、見守り隊、サポート隊、PTA活動)により、教育効果を与えている。	1・3	サポート隊の活動による学校支援 登下校の見守り隊による支援 PTAによる学習活動の支援	保護者や地域の方々をサポート隊としてご登録いただいたが、いったん中断した活動を以前の様に再開することができなかった。そのような中でも花壇や栽培活動を支援していただいているフラワーサポート隊の方々には、今年も活動を継続していただき、花壇をいつもきれいな状態に保つ事ができた。今年度はにじのびらの方々も本格的に再開し、読み聞かせ活動の充実へとつながった。登下校中の見守り活動や、書き初め会へのボランティア参加、PTAふれあいまつりの実施など、状況に合わせた活動によって、児童の学校生活を支えていただいている。	現状に合わせて、地域の方や保護者の方の力を学校に取り入れていながら、コミュニティ・スクールとして地域に開かれ、且つ地域に根差した学校づくりを進めていきたい。
ALT(アシスタント・ランゲージ・ティーチャー)を活用した外国語の学習は効果的である。	1	1～6年生に対するALTによる学習支援	今年度の外国語・外国語活動の教育では、専科が3年生から6年生まで担当することで、素地から基礎へと一貫した流れの中で学習を実施することができた。さらに、ALTを交えることにより、異文化への関心・理解や、英語を話せる・聞き取れるということだけではなく、積極的にコミュニケーションをとってみようと思える児童の育成が進んだ。	次年度以降も、外国語の専科を設置することができると、4年間を見通した学習をすすめることができると考える。
ICT(情報通信技術)機器を使った教育活動は、学習への関心を高め、望ましい教育効果を与えている。	1	一人一台のICT端末の積極的な活用 プログラミング学習 学習中のデジタル教科書や動画などの日常的な利用	端末を利用した「調べ学習」「表現・制作」においては、一定の活用が見られた。しかし、「遠隔教育」「情報モラル教育」「評価への活用」では、職員間の個人差が大きく今後も情報を共有し、研修を行っていく必要がある。	ICTの効果的な授業への取り入れ方を探りつつ、教材の共有化などICTを用いることによるメリットを試行錯誤しながら、児童の更なる学力の向上に活かせるようにしていきたい。
学習を通して、児童に地域で生きる力がついてきている。	1・2・3	地域の特産物である「梨」の栽培についての学習 ごみ処理施設の見学をはじめとする学習を通じた環境学習 花壇や農園での栽培活動 行事を飾る花の栽培	3年生の梨園の見学・学習、4年生の車いす体験や手話体験、5年生の米作りなど、様々な体験の活動を行った。1・2年生の合同校外学習で地域の公園に行ったり、学んだことを発表をしたりしながら、自分の暮らす地域の魅力を発見することができた。特に3年生では、学区にある工場など、新たに学校とのつながりをもつことができた。	今年度新規に開拓した地域にある工場など、地域の魅力について学習を進めるためにも継続した学習計画を立てていきたい。そして、児童が地域に誇りをもって生活できるよう計画を立てていきたい。
校舎内外が整理され、施設の安全等がよく管理されている。	1・2・3	安全点検の実施	点検や整備を行い、児童が安全に学校生活を送ることができるよう努めてきた。修繕が必要な箇所については、素早く対応していただき、安全に学校生活が送れた。	点検や整備を行い、児童が安全に学校生活を送ることができるよう努めていく。
花壇・農園など体験活動のための環境がよく整備されている。	1・2・3	親子ふれあいクリーン大作戦 フラワーサポート隊の活動	PTA本部・ふるさと委員会を中心に、運動会に向け校庭の除草作業を行った。また、フラワーサポート隊には、平日だけでなく、休日や長期休業中にも花壇の手入れをしていただき、年間を通じて環境が整った。また、児童も「お花同好会」として参加し、育てたサルビアで運動会の会場を飾るなど、多くの方々の協力によって活動を進めることができた。	花壇や畑など、児童が十分に体験活動を行える環境を整備し、学習活動をはじめ、学校生活全般が充実したものとなるように、整備を進めていきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

コロナについては、依然として予断を許さない状況ではあるが、今後も感染症対策を施しながら、子どもたちのために進めていってほしい。
戸田カフェなど、新しい取組に対して、できることは協力してすすめていくので、地域として盛り上げていきたい。
様々な対応が求められる状況ではあるが、健康に留意し、校長を中心に「チーム戸田」で頑張っていきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

●通常の学校生活を取り戻しつつも、未だ新型コロナウイルス感染症の終わりが見えない中、いかにして教育活動を維持し、児童の学びの保障とともに学校の担う役割を果たしていくかが今年度の課題であった。児童や保護者、地域へスピード感をもって、柔軟かつ誠意をもった対応や多様な考えに寄り添える受容的な対策を施すことが求められた一年でもあった。学校教育目標の具現化において教職員一人一人が理解し、それぞれの役割や立場において対応や対策について熟慮し、課題を乗り越えることができた。
●緊急事態においてこそ、限りある学校のリソースの中で、学校運営協議会やPTAをはじめとする保護者や地域を動かし、協力や支援をいただくことから、持続可能で開かれた学校が成り立つと考える。それぞれの組織の相互の利となるよう、積極的に広域的、強固な組織づくりを行いたい。